

2018年度 学術研究発表ブラッシュアップセミナー

『“伝える”技術～学術研究発表のコツ～』

公益社団法人 日本放射線技術学会 近畿支部
学術委員会

「研究の入口と出口」

大阪大学大学院医学系研究科保健学専攻 齋藤 茂芳

皆さんは研究をする上でまず何から始めますか？また何をもって研究が終わったと判断しているのでしょうか？データの解析はどの時点でしていますか？解析を後回しにしたため、いざデータをまとめている途中であのデータも取っておけば良かったと後悔した経験はありませんか？逆にせっかく集めたデータを発表の時間が足りないなどの理由から研究に使用しないことなどないでしょうか？倫理審査は研究を実施する前に必須となりますし、動物実験においては、実験開始前の実験計画書の提出は義務付けられています。計画書ではどのような解析を行って、どのような形にして発表するか、共同研究者の責務や社会的な意義まで明記することもあります。本講義では研究の前準備、研究の入口またプロトコールの作成、研究の出口の設定について、学会発表の位置づけや論文化を踏まえ研究を実施していく一連の流れについて一緒に考えたいと思います。

「研究に利用する画像データの取り扱い」

大阪国際がんセンター 川真田 実

2017年5月30日に新しい個人情報保護法(正式名称:個人情報の保護に関する法律)が全面施行された。医療機関では患者の病状や治療内容に関する情報を日常的に扱うことから、個人情報の取り扱いには細心の注意を払うことが求められている。放射線技術学の分野においても個人情報を取り扱う学術研究発表が増えてきており、学術研究における個人情報の取り扱いについてはこれまで以上の注意が必要となってきた。特に画像データについては放射線部門内であれば簡単に出力が可能であることから、研究を行う上で様々な知識を持ち合わせておく必要がある。本講義では学術研究を行う際の画像情報に関する知識の整理を行い、個人情報が含まれている場合の取り扱い手法や画像情報の匿名化手法についても実例を交えながら解説を行う予定である。

「研究に使える便利なフリーソフト：Image J」

大阪市立大学医学部附属病院 片山 豊

近年、放射線画像（DICOM 規格の画像）に対応した画像ビューワは、有償・無償を問わず多数存在する。その中でも、ImageJ はオープンソースであるため、処理の過程を全て確認することができ、ソフトウェアの演算・処理過程が明確であることより、さまざまな科学研究に使用されている。また、ImageJ は Java の仮想マシン上で動作するソフトウェアであることから動作環境に依存しない特徴を有し、環境構築が簡便である。

ImageJ を用いて行える画像処理および画像解析は多岐にわたる。ここでは、ImageJ で行える一般的な画像処理および画像解析、プレゼンテーションで必要になる画像の作成方法を中心に ImageJ の標準機能でできることについて、実例を交えて簡単に説明を行う。

「プレゼンテーション～伝える技術～」

済生会野江病院 山本 鋭二郎

良い研究発表の条件とは何でしょうか？ 良い研究発表を行うためにはさまざまな要素があります。その中でも、まず誰もが思いつくのがスライドの作成ではないでしょうか？スライド作成のための情報はネット上にも溢れていますし、人（先輩）によって言うことも異なるので、何が正解なのか悩まれたことはありませんか？私は正直言って、人によって感性は異なるものですから、これが正解なんて絶対的なものはないと思っています。ただ、なんでもいいのかということそうではありません。スライド作成にも多くの方に受け入れられる“お作法”というものがあるのです。

本講演では視覚や聴覚から得られた情報が脳の中でどのように処理されて、理解という段階に至るのかを認知心理学的アプローチを用いて概説します。そのうえで具体的に聴衆に伝えるためのスライド作成における“お作法”を紹介し、伝わりやすいスライドデザインとはどのようなものかをお伝えします。そして、聴衆に伝わるプレゼンテーションを行うためのコツを実演してみたいと思います。

※本講演は平成 30 年 1 月に開催された日本放射線技術学会近畿支部 第 61 回学術大会の基礎講演でお話した。